

津市史談教案
全

特31

213

025550-000-1

特31-213

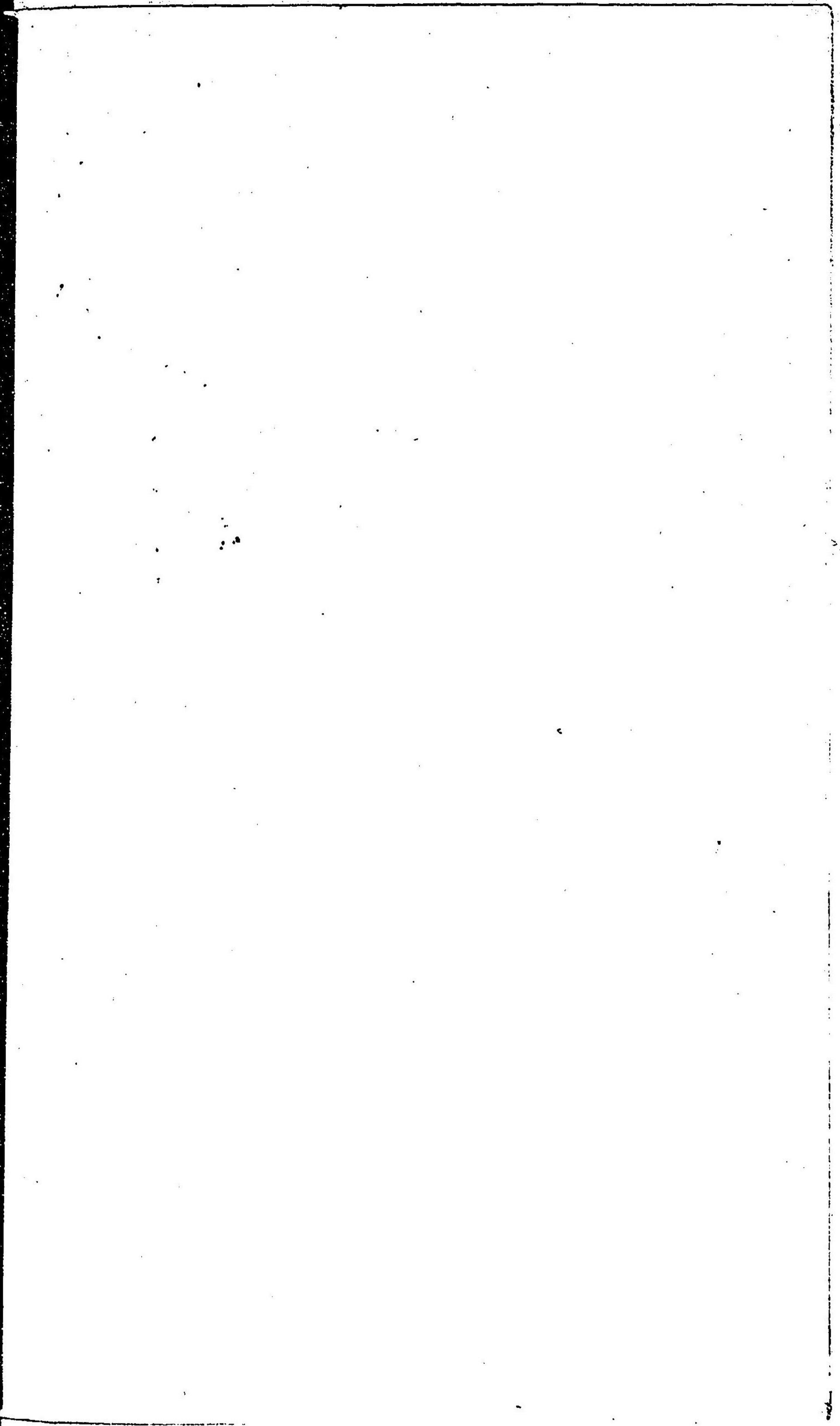
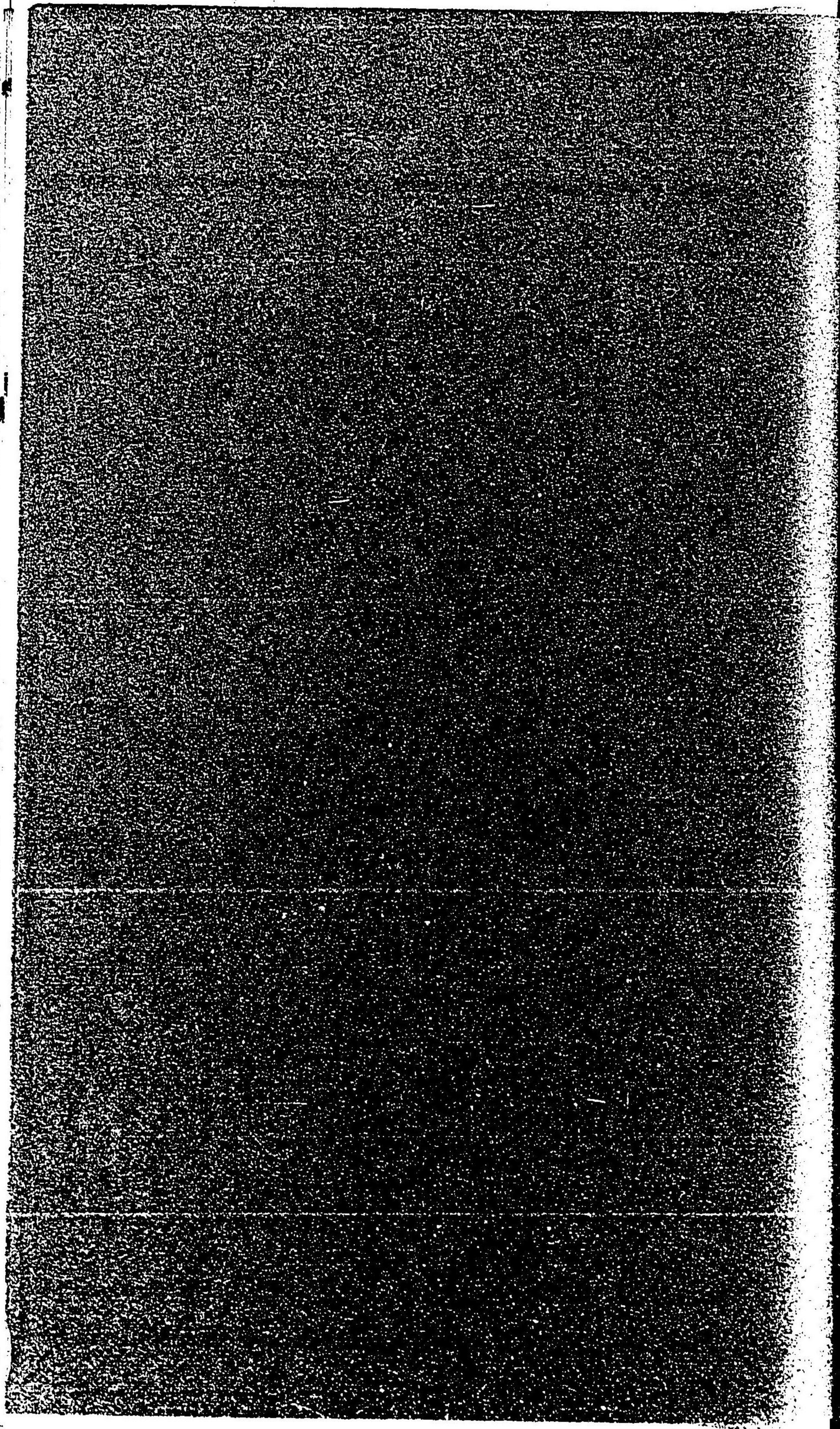
津市史談教案

多田 石之助 / 編

M27

ADC-3040





特31
213

高 興 宗 像



津市史談教案

第一章 津城趾

一 觀察

(1) 城櫓及城

建物ハ城ノ中央ヲ本丸ト云ヒ、其ノ兩側ニアルモノヲ、方向ニ

ヨリ東ノ丸、西ノ丸トイフ、

周圍ニアル池ヲ内堀トイヒ、丸ノ内ノ周圍ニアルヲ外堀

トイフ

本丸ノ東ニアリシ鐵門ハ、東大手門ニシテ西方ニ西大手門ア

リ、當校ノ西北ニ京口門アリ、丸ノ内ヨリ南堀端ニ通ズルモノ

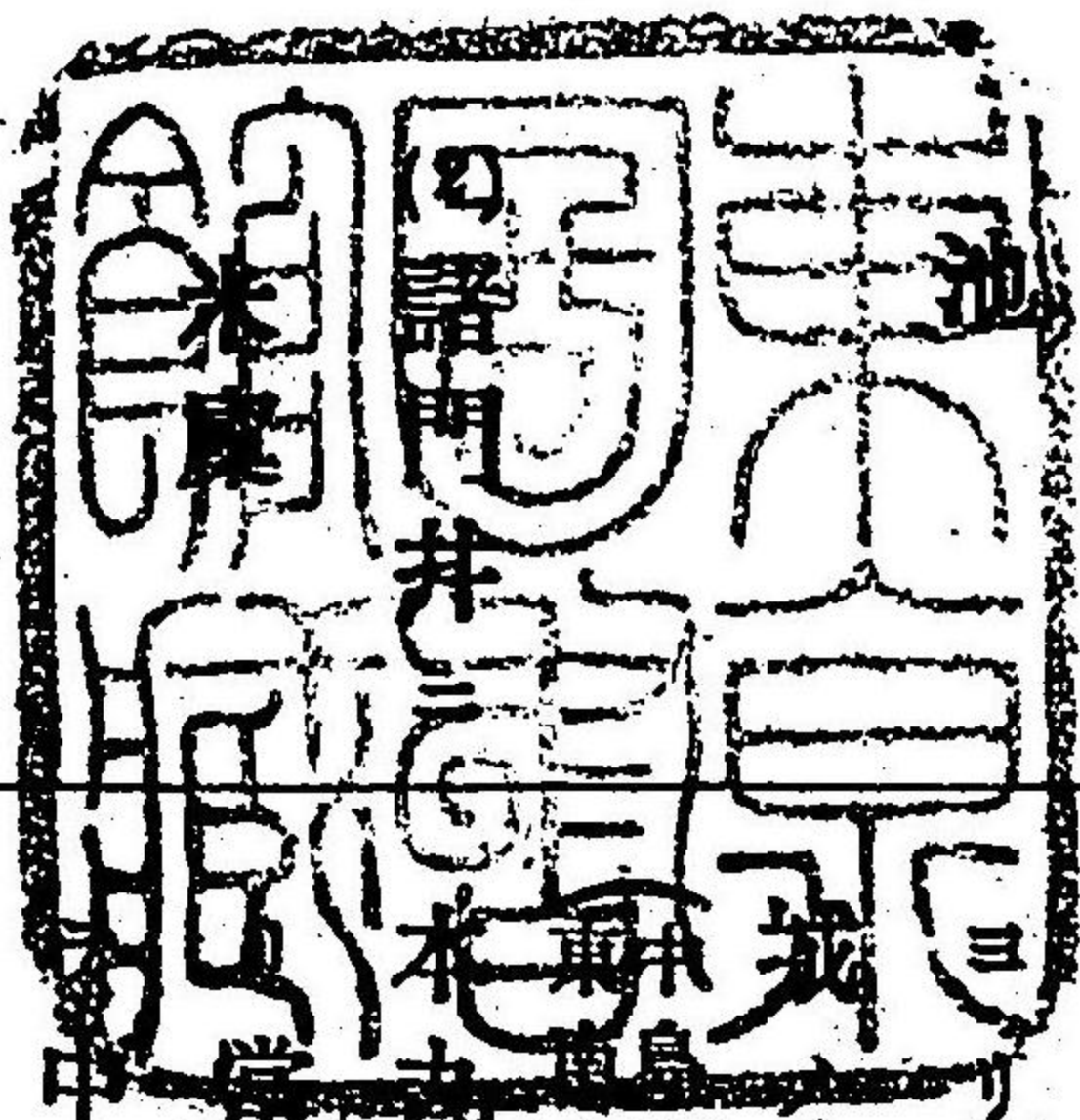
ヲ中島門(一名不淨門)トイヒ、西堀端ニ通ズルモノヲ伊賀口門トイ

フ

其ノ他釜屋町口、新町口、八町口、岩田口等ニ柵門アリタリ

米廩ハ現今ノ當校、監獄署ノ所在地、及ヒ丸ノ内(伊勢新聞社ノ前及京口門ノ入口)

等ニアリテ貢米ヲ藏メシ處ナリ、



多田石之助
吉村又一 編輯

(3) 御殿及藩臣ノ邸宅

附説

二來歴

(1) 細野氏

凡ソ三百三十餘年前細野藤敦ユ、ニ築キテ居城トナス、ソノ後織田信長之ヲ亡ボシ、從弟信昌ヲシテ守ラシメ、間モナク弟信包ヲシテ之ニ代ラシム

(2) 富田氏

豐臣秀吉起リ、信包ヲ近江ニ移シテ富田知信ヲシテ代ラシム、關ヶ原ノ役毛利秀元等大兵ヲ率井テ來リ攻ム、ソノ勝ツベカラザルヲ知リ遂ニ和ヲ講ズ

(3) 藤堂氏

八年ヲ經テ德川氏ノ天下ヲ治ムルニ及ビ、藤堂高虎公ヲ伊賀伊勢ニ封ズ、高虎公大ニ修補シテ居城トナス、明治五年ニ至ルマデ二百六十餘年ノ間、ソノ子孫代々之ニ居リ、後漸々カワ

御殿ハ城ノ西側今ノ尋常師範學校ノ所在地ニアリテ、藩臣ノ邸宅ハ丸ノ内ヲ始メ南堀端、西堀端、北堀端、一番町、二番町、三番町等ニアリシナリ

丸ノ内ヨリ分部町及中町ヘノ道路ハ、廢藩後ニ通ゼンモノナリ

三高虎公

(1) 幼時

リテ今日ノ有様トナレリ
高虎公ハ藤堂氏ノ先祖ニシテ、近江ノ人ナリ、公小兒ノ時ヨリツノ行ヒ成人ノ如クニシテ、見ルモノ感心セザルハナシ、公年十三ノ時單身ニシテ賊ヲ斬リ、十五歳ノ時ヨリ戰ニ從ヒテ屢々功アリタリ

(2) 手柄

長ズルニ及ビ、大小五十餘戰、皆功アリ、秀吉ノ朝鮮ヲ討ツヤ、舟師ノ大將トシテ、大ニ海上ニ戰ヒ屢々之ヲ破リ、當時戰功第一ト稱セラル、德川氏ノ世ニ及ビ又功勞少ナカラズ、家康ノ死セントスル時、公ヲ召シテ天下ノ先鋒大將タルベキヲ命ズ、ソノ勇武ニシテ重ク用井ラレシコト、推シテ知ルベキナリ

(3) 高山神社

明治十年津藩士相謀リテ、舊ト藤堂氏ノ別莊ナリシ公園ニ社ヲ建テ、高山神社ト稱シ、公ノ靈ヲ祀ル、社格ハ縣社ナリ

四高兌公

(1) 概説

高兌公ハ高虎公十世ノ孫ナリ、性仁慈ニシテ至孝ナリ、文武ノ道ニ厚ク儉約ヲ重セラル、學校ヲ興シ有造館ト名ツケ、大ニ

子弟ヲ教育シ忠臣孝子ヲ旌表シ、士風大ニ革ル、其ノ嗣高猷公子弟ヲ教育シ志ヲ繼ギ、待賓館(現今津警察署ノ在ル處)ヲ修文館ト改メ、市人ノ子弟ノ教育ヲス、メラル、

(2) 有造館

有造館(當校新築地ニアリテ今ヨ)内ニ養正寮(藩士ノ童子修學スル處)時習館(士ノ講習スル處)整暇堂(兵法講議義所等ヲ設ケ其ノ周圍ニ演武場二十八區アリ、擊劍、柔術、槍弓等ノ武藝ヲ教フル所トス、コ、ニ於テ人物輩出シ他藩ノ人來リテ教ヲ乞フモノアルニ至ル、明治四年廢藩ト共ニ之ヲ閉ヅ)

(3) 督學

有造館ヲ支配スルモノヲ督學トイフ、前後ユノ職ニアリシ人ハ、津阪東陽、石川竹厓、齋藤拙堂、川村竹坡、齋藤誠軒、土井馨牙ノ六氏ニシテ皆有名ノ學者ナリソノ餘慶ヲ今日ニ貽スコト大ナリトス、

(4) 結城神社

孝女登勢

高兎公忠孝ノ道ヲ獎勵センガ爲メ、南朝ノ忠臣結城宗廣公ノ石碑ヲ建テ、其ノ功ヲ錄シ、又連部村ノ孝女登勢ヲ召シテ、其

五高紹公

ノ至孝ヲ賞セラル、後世登勢ノ紀念碑ヲ公園ニ建ツ
十二世高潔公ニ至リ、廢藩後東京ニ移住シ、華族ニ列セラレ伯爵ヲ賜ハル、高潔公卒シテ、高紹公嗣ガル

第二章 結城神社

一 觀察

(1) 社殿及碑

八幡町ノ東八幡神社内ニアリテ、南ニ向ヒ、靈廟ト拜殿分ヲ分ル社殿ノ西側ニ碑アリ

(2) 招魂社

西南部ニ方リテ招魂社、八幡神社アリ

二 宗廣公

(1) 手柄

宗廣公ハ陸奥ノ國磐城白河ノ城主ニシテ、元弘ノ亂、後醍醐帝ノ密詔ヲ奉シ、兵ヲ起シテ新田義貞等ト共ニ北條高時ヲ亡ボシ、其ノ後足利尊氏ノ叛クニ及ビ、源顯家ト皇子ヲ奉シ、屢賊軍ヲ破リシガ、楠新田氏等ノ戰死スルモ、獨リ勇氣ヲ失ハズ、義兵ヲ募ランガタメ海ヲ航シテ東方ニ至ラントス、會々暴風雨ア

(2) 別格官幣社

リテ、七日七夜ノ間海上ニ漂ヒ、辛フシテ安濃ノ津ニ着シ、再ビ發船セントシテ病ニカ、リ、賊ノ亡ビザルヲ憤リテ、遂ニ歿セラル

四百六十餘年ヲ經テ高兌公石碑ヲ建テ、祭ヲ重セラレシヲ以テ、宗廣公ノ忠義ヲ知ルモノ多キニ至レリ、明治九年(建碑十四年)伊勢飯高郡ノ人川口某碑ノ頽レンコトヲ慨キ自ラ東西ニ奔走シ、殊ニ力ヲ盡ス、故ヲ以テ十五年別格官幣社ニ列シ、翌年正四位ヲ贈ラレ、十七年社殿ノ造營成ル、實ニ聖世ノ德澤ト云フヘシ

第三章 養正學校沿革

養正學校

高兌公教學ヲ重ゼラレシヨリ、有造館ヲ建テ、内ニ養正寮ヲ設ケ、兒童ノ教育ニ力ヲ盡サレタリ、後廢藩ニ際シ、有志ノ者舊學校ヲ閉ヅルヲ慨シ、相謀リテ私塾ヲ立ツ、五年學制ノ發布アルヤ、六年其ノ内ニ一校ヲ起シ、其ノ

跡ヲツグ、是ヲ小學第一校ト號ス、實ニ縣下小學ノ始メナリ、(後安濃津小學校ト改稱セリ)

七年教則ノ改正アリ、八年校内ニ師範學校ヲ置キ津校ハ改メテ師範有造附屬小學ト名ケ、後生徒ノ増加スルニ從ヒ、分離シテ再ビ安濃津學校ヲ興セリ

十一年六月當校ヲ新築シ、改メテ養正學校ト名ツケ、後大門町ニアル校舍(今ノ養正尋常小學校)ヲ増築シ、今ヤ遠カラズシテ舊有造館跡ニ移ラントス

附 說

今ノ校長川村寬氏ハ、當校創設ノ際ヨリ今ニ至ルマデ、終始一日ノ如ク子弟ノ教育ニ從事シ、其ノ功勞實ニ大ナリトス

明治廿七年七月二十日印刷
明治廿七年七月廿五日出版

著作者

多田石之助

三重縣津市久留島五番屋敷

同

吉村又一

三重縣津市西町廿五番屋敷

發行者

松田鉦三郎

三重縣津市京口町廿八番屋敷

印刷者

松田武兵衛

三重縣津市北町五拾七番屋敷



